2015 年度

日本登山医学会認定国際山岳医・国際山岳看護師
および
日本登山医学会認定山岳医・山岳看護師
講習会

UIAA/ ICAR /ISMM Diploma in Mountain Medicine

募集要項

主催：日本登山医学会

認定：
JSMM（日本登山医学会）
UIAA Medcom（国際山岳連盟医療部会）
ICAR Medcom（国際山岳救助委員会医療部会）
ISMM（国際登山医学会）

後援：
公益社団法人　日本山岳協会
（独立行政法人）日本スポーツ振興センター　国立登山研修所

Certificate for Courses in Mountain Medicine

This is to certify that the courses in Mountain Medicine organised by:

Japanese Soceity of Mountain Medicine

are in accordance with the minimum requirements of the Medical Commissions of Union Internationale Des Associations D'alpinisme (UIAA) and International Commission for Alpine Rescue (ICAR), and the International Society for Mountain Medicine (ISMM). The organisation is entitled to use the UIAA, ICAR and ISMM logos for their courses for two years from May 2010, and award the title *UIAA/ICAR/ISMM Diploma/Certificate in Mountain Medicine* to successful candidates as set out in the Diploma in Mountain Medicine regulations agreed in Aviemore, Scotland in October 2007.

Signed:

Dr Buddha Basnyat M.D.	**Dr Fidel Elsensohn M.D.**	**Dr Marco Maggiorini MD**
President	***President***	***President***
UIAA Medcom	***ICAR Medcom***	***ISMM***

国際山岳医制度Diploma in Mountain MedicineはUIAA Medcom（国際山岳連盟医療部会）により1997年に制定された国際山岳医制度です。現在では、UIAA/ISMM（国際登山医学会）/ICAR（国際山岳救助委員会）が認定する国際的なDiplomaに発展しています。目的は山岳医学の臨床および研究を、あらゆる面において実践出来る医師を養成することです。現在オーストリア、ドイツ、英国、フランス、イタリア、スイス、スペインの登山医学会がその運営を行っています。上記certificateにあるように、この日本登山医学会の組織するプログラムは上記３組織が認定する国際山岳医条件を満たしていると判断されました。必要な講習過程を終了し、すべての試験に合格すれば、上記各国のそれと同等の国際資格（UIAA/ISMM/ICAR Diploma in Mountain Medicine）が取得出来る制度が日本にも2010年度に発足したことになります（2010年5月記）。

I　目的

山岳医学の臨床および研究をあらゆる面において実践出来る医療従事者を養成することを目的とします。山岳地帯で発生しうる疾病および外傷の理論と実践について学びます。そのためには山岳環境そのもの、およびそこで起こる生理学的変化を理解する必要があります。また山岳地帯へ至るまでの旅行医学の知識も要求されます。さらに山岳環境でのサバイバルやレスキューの技術も体得しなければなりません。

II　理念

日本登山医学会認定山岳医・日本登山医学会認定山岳看護師および日本登山医学会認定国際山岳医・日本登山医学会認定国際山岳看護師の理念は以下の通りです。

１．日本登山医学会認定山岳医（以下国内山岳医）・日本登山医学会認定山岳看護師（以下国内山岳看護師）：高所医学、山岳医学、旅行医学等に関する専門知識を有し、山岳地帯で発生する疾病および外傷の臨床を実践できる医師・看護師。具体的には日本登山医学会が規定する山岳医プログラムの受講および実技試験の合格が必要である。（冬期登山技術や凍傷、低体温症、雪崩の実習は必修とするが、実技の合否判定は行なわない）

２．日本登山医学会認定国際山岳医（以下国際山岳医）・日本登山医学会認定国際山岳看護師（以下国際山岳看護師）：高所医学、山岳医学、旅行医学等に関する高度な医学知識のみならず、山岳環境でのサバイバルやレスキューに関する十分な技術、すなわち、山岳救助関係者と共に活動ができ、万一の場合には単独で行動し安全に下山できるレベルの登山技術が求められる。具体的には、UIAA/ISMM/IKAR の認定条件を満たす日本登山医学会認定の山岳医プログラム全ての受講および実技試験の合格が必要である。

III　募集対象

日本登山医学会会員である医師および看護師がエントリーできます。2014 年度からは、日本登山医学会会員である看護師に募集対象を拡大しました。受講するコースは医師と同一のものです。それ以外の方の聴講は、各クラスタ責任者が許可した場合に限り、認めることがあります。

登山経験の乏しい参加希望者は、事前に各種山岳団体や山岳ガイドなどによる登山技術講習や救助技術講習を受けておくことを推奨します。このプログラムには

“山岳技術講習”は含まれません。国際山岳医・国際山岳看護師に合格するためには、最終ページに付記した技術基準を余裕をもって実践できることが必要ですし、国内山岳医・国内山岳看護師に合格するためには、技術基準の内容を十分に理解し経験していることが必要です。国際山岳医・国際山岳看護師希望者はこれらの基礎的山岳技術を備えていないと、立山クラスタ（夏山）や八ケ岳クラスタ（冬山）などの登山救助技術の実技試験に合格することは困難です。また、山岳地帯で余裕を持って行動できる体力も必要です。

Ⅳ　2012 年度以降の改訂点

2010 年 5 月にスタートした日本のプログラムは、上記の certificate にあるように、2007 年 10 月スコットランドの Aviemore での UIAA/ISMM/ICAR 合同会議において定められた regulation に則り作成されていました。さて、2010 年 8 月ペルーの Arequipa で行われた同合同会議では、DiMM 履修内容に関する新たな regulation が採択されました（これからも山岳医療の進歩による version up が予想されます)。よって日本でも 2012 年度からは新 regulation に基づきかつこの２年間の日本での経験を踏まえて、以下のようにプログラムを改訂しています。

１．「実践山岳外傷学」クラスタを新設する（国際・国内共通）。

２．「高所」「低体温症」「凍傷」に関する講義・実習時間を増やす（国際・国内共通）。

３．「遠征・野外活動医学コース（40 時間)」を「高所登山トレッキング医学・山岳救助実践クラスタ（12 時間)」として改組し、国際山岳医・国際山岳看護師希望者の必須クラスタとする。

４．実技試験については、国際山岳医・国際山岳看護師と国内山岳医・国内山岳看護師とで異なる合格基準を設ける。

2012 年度からエントリーされる方はこの新プログラムを履修していただいています。2011 年度以前にエントリーされた方は、旧募集要項に示されたすべての課程を終了すれば当該資格取得が可能です(もちろん新しく加わったコースやクラスタを受講する権利もあります)。

５. 2012 年度より日本登山医学会主催の DiMM 札幌クラスタを日本登山医学会会員が聴講することを認めました。エントリーする資格のある会員で、国際山岳医制度・国際山岳看護師制度または国内山岳医制度・国内山岳看護師制度にエントリーされていない方が受講された場合、受講後１ヶ月以内にエントリーし札幌クラスタ所定の事後課題に合格された場合に限り、2015 年度札幌クラスタ受講を有効単位

とすることができます。

V　コース概要

一般教程

1．　宇都宮クラスタ　山岳医療上の諸問題、山岳技術基礎、無雪期山岳スポーツ、高所　2015/5/16、17 または 2015/5/16、17 および 10/25
2．　立山クラスタ　登山技術実技実習・検定夏期、沢登りなど　　2015/7/18, 19, 20
3．　実践山岳外傷学（開催場所未定）　　2015/8/29, 30
4．　東京クラスタⅠ　基礎理論学習　　2015/9/26, 27
5．　東京クラスタ II　高所登山トレッキング医学・山岳救助実践　2015/11/15
6．　八ヶ岳クラスタ　登山技術実技実習・検定冬期など　　2016/1/16, 17, 18
（国際山岳医・国際山岳看護師希望者は、立山クラスタの国際山岳医・国際山岳看護師レベルでの合格が参加に必要。国内山岳医・国内山岳看護師希望者は、立山クラスタの国内山岳医・国内山岳看護師レベルでの合格が参加に必要。）
7．　札幌クラスタ　救助技術と山スキー，スノーシュー　　2016/月日未定

国際山岳医の一般教程は、全部で 126.5～128.5時間になります。上記の教程から無雪期山岳スポーツ、沢登り、登山技術実技実習冬季、アイスクライミング、救助技術総論および実践、山スキー・ボード・スノーシュー、東京クラスタIIを除く教程すべての終了試験に合格した講習生には、「国内山岳医・看護師認定証」が授与されます。「国内山岳医・国内山岳看護師」合格のための夏山登山技術の実技合格基準は、国内の山岳事情に沿った基準です。「国内山岳医・国内山岳看護師」取得者が「国際山岳医・国際山岳看護師」資格を希望する際は、立山クラスタを再受講し、国際山岳医・国際山岳看護師レベルの夏山登山技術および上記の免除科目を受講、合格する必要があります。

VI　＜2012 年-2015 年のプログラム（予定）＞

国内山岳医・国内山岳看護師のみを希望される受講生は黒字で記載された科目の履修のみが必要で、赤字で記載された科目を履修する必要はありません。将来国際山岳医・国際山岳看護師も希望する予定があれば履修可能です。また 2012 年度のプ

ログラムは、欧州 DiMM の新カリキュラムに沿った変更があります。2011 年度以前から受講されている受講生は、自分の履修状況と 2012 年度のプログラムをよく確認して、受講科目の欠落がないよう、ご注意下さい。各クラスタの募集要項はホームページ上に掲載いたします。なお、プログラムは講師の都合などのため一部変更される場合もあります。予めご了承ください。

１．宇都宮クラスタ　山岳医療上の諸問題、山岳技術基礎、無雪期山岳スポーツ、高所（14～16 時間）

2015. 5.16　女性と山（1/3 時間、理論）
2015. 5.16　老人と山（1/3 時間、理論）
2015. 5.16　ハンディキャップと山（1/3 時間、理論）
2015. 5.16　山の有害生物（脊椎動物、1/4 時間、理論）
2015. 5.16　山の有害生物（無脊椎動物、1/4 時間、理論）
2015. 5.16　山の有害生物（植物、1/4 時間、理論）
2015. 5.16　有害ガス・電撃（1/4 時間、理論）
2015. 5.16　眼のトラブル（1/4 時間、理論）
2015. 5.16　口腔、顎、顔面のトラブル（1/2 時間、理論）
2015. 5.16　皮膚のトラブル（1/4 時間、理論）
2015. 5.16　高所 3（3 時間、理論、ワークショップ、2012 年度以降のエントリー者は必須）
2015. 5.17　ロープワーク（6 時間、実習）
2015. 5.17　フリークライミング（2 時間、実習、トレイルラン参加者は受講不要）　（8. を参照）
2015. 10.25　トレイルラン（4 時間、実習、無料、フリークライミング参加者は受講不要）　（8. を参照）

２．立山クラスタ　登山技術実技実習・検定夏期など（26 時間）

2015. 7.18　登山個人装備（1 時間、実習・検定）
2015. 7.18　ナビゲーション技術（4 時間、理論＋実習・検定）
2015. 7.18　生存技術・疲労（2 時間、理論・検定）
2015. 7.18　生存技術・疲労（2 時間、実習・検定）
2015. 7.19　登山技術実技夏期（9 時間、実習・検定）
2015. 7.20　沢登り（8 時間、立山、実技・検定）　（8.を参照）

３．実践山岳外傷学（開催場所未定、14 時間、全員必須）

本講習受講前に JPTEC を受講しておくことが望ましい。

2015. 8.29　実践外傷学（8 時間、実習）

2015. 8.30　実践外傷学・実践麻酔学（6 時間、実習）

４．**東京クラスタⅠ**　基礎理論学習（19.5 時間）

2015. 9.26　旅行医学（1 時間、理論）

2015. 9.26　国際感染症（1 時間、理論）

2015. 9.26　高所 1（1 時間、理論、2012 年度以降エントリーでは必須）

2015. 9.26　高所 2（2 時間、理論＋実習、2012 年度以降エントリーでは必須）

2015. 9.26　低体温症（1 時間、理論）

2015. 9.26　凍傷（1 時間、理論）

2015. 9.26　水難（1 時間、理論）

2015. 9.26　熱中症・日焼け（1 時間、理論）

2015. 9.26　小児（1 時間、理論）

2015. 9.27　気象（1 時間、理論）

2015. 9.27　栄養、水分バランスと疲労（1 時間、理論）

2015. 9.27　携帯救急医療品（1 時間）

2015. 9.27　法律問題・山岳保険（1/2 時間、理論）

2015. 9.27　ストレス対策（1 時間、理論）

2015. 9.27　関連持病・登山者検診ネットワーク（3 時間、理論）

循環器疾患・呼吸器疾患・神経疾患・内分泌・腎疾患と登山、登山者検診ネットワーク

2015. 9.27　山のリスクマネージメント（1 時間、理論）

2015. 9.27　運動生理学（1 時間、理論）

日にちを含めた予定変更はあり得ます。

５．**東京クラスタⅡ**　高所登山トレッキング医学・山岳救助実践（12 時間、2012 年度以降のエントリー者は必須）

2015. 11.15　遠征登山：現代ヒマラヤ登山トレッキング事情（4 時間　理論）

2015. 11.15　高所・寒冷などに関する実践的山岳遭難事例検討（4 時間　ワークショップ）

2015. 11.15　国際的 relationship（4 時間　理論・ワークショップ）
日にちを含めた予定変更はあり得ます。

6. 八ヶ岳クラスタ　　登山技術実技実習・検定冬期など（24 時間）
2016. 1.16　低体温（2 時間、理論＋実習・検定）
2016. 1.16　凍傷（1 時間、理論＋実習・検定）
2016. 1.16　雪崩（4 時間、理論＋実習・検定）
2016. 1.17　登山技術実技・検定冬期（9 時間、実習）
2016. 1.18　アイスクライミング（7 時間、八ヶ岳、実技・検定）　（8. を参照）

7. 札幌クラスタ　　救助技術と山スキー，スノーシュー（組織レスキューとの連携を構築する）（17 時間）
2016.　　即興の救助技術総論（1 時間、理論）
2016.　　低体温症（1 時間、理論）
2016.　　即興の救助技術実践（2 時間、実習）
2016.　　組織救助技術実践（2 時間、実習）
2016.　　ヘリコプターレスキュー（3 時間、理論＋実習）
2016.　　クレバスレスキュー（1 時間、実習）
2016.　　山スキー・ボード・スノーシュー（7 時間、札幌、実習）　（8. を参照）

8. 山岳スポーツ活動を経験する(上記予定に分けて組み込まれています)
20158.5.1　フリークライミング（2 時間、宇都宮、実技）　または　2012.10.27 トレイルラン（4 時間、宇都宮、実技）
2015.7.20　沢登り（8 時間、立山、実技・検定）
2016. 1.18　アイスクライミング（7 時間、八ヶ岳、実技・検定）
2016.　山スキー・ボード・スノーシュー（クレバスレスキューを含む）（7 時間、札幌、実習）

以上１.～7.の合計時間（最短）が国際山岳医資格を得るのに必要な履修課目です。
{国内山岳医資格のみの希望者は黒字で記載された研修の履修のみが必要で、赤字で記載された教程を履修する必要はないので、最短計 77.5 時間になります。}

VII　本コース受講前に満たしておくべき項目

・受講者は日本登山医学会会員に限ります。本コース受講前に入会しておいてください。

http://www.jsmmed.org/pg43.html

・受講者は本コース受講前に山岳保険（冬山登山、岩登り、アイスクライミング、山スキーを行っている最中の事故にも適用出来るもの）に加入していなければならない。なお年度が替われば再加入する必要があることをお忘れなく。

・＜本コース受講中に満たしておくべき研修や講義＞

① 1 次救命処置（Basic Life Support; BLS）
② 2 次救命処置（Advanced Cardiovascular Life Support ; ACLS）
③ Immediate Cardiac Life Support（ICLS）
④　JPTEC

山岳医資格申請時には、上記①＋②＋④、または③＊＋④の過去 5 年以内に取得もしくは更新したプロバイダー資格、またはインストラクター資格の証明書を提示することが求められます。④は松本クラスタ受講前に受講しておくことが望ましい。＊③は取得時期を問わない。

VIII　認定試験

各クラスタ終了後認定試験を行います（登山技術その他の実習の試験には、講習の最中や終了前の実技試験も含まれます)。クラスタ終了後のペーパーテストには、多枝選択式と記述式の設問を行います。受講者は試験結果に対する異議申し立てをクラスタ責任者を通して試験委員長に行うことが出来ます。

IX　参考図書

「登山の医学ハンドブック第２版」、「High Altitude Medicine & Physiology Fifth edition」、「全図解レスキューテクニック 初級編／堤 信夫」、「増補改訂新版 イラスト・クライミング／阿部亮樹」、「山岳遭難救助技術マニュアル３【山岳救助組織従事者編】」、「ガイドマニュアル　山岳ガイド編」、「ヤマケイテクニカルシリーズ（読図、気象、登山医学、レスキュー、クライミング、沢、ＢＣ、etc）」

公式情報サイト：UIAA Official Standard

http://www.theuiaa.org/medical_advice.html

X　費用

（1）受講料

受講生は各クラスタ受講前に定められた受講料を支払うこととする。ただし「8．山岳スポーツ活動を経験する」については、それが含まれる 4 つのコース毎に受講前に支払うこととする。

（2）宿泊費

宿泊費や食費は原則受講料に含まれません。各自の負担で宿泊先や食事を予約して下さい（こちらで宿泊先を紹介出来るときは、事前に連絡致しますが宿泊費は各自負担です)。同様に交通費も各自負担です。

（3）受講登録料

受講登録料として応募申請時に10000円を日本登山医学会山岳医委員会（日本登山医学会事務局内）に支払っていただきます。

（4）キャンセリングポリシー

受講登録料はお返しできません。各コースの受講料も原則的にはお返ししません。但し、もっぱら運営者側の責任によりクラスタが受講出来なくなった場合は、そのクラスタの受講料はお返しします。

XI　受講修了

本コースは 5 年以内に修了することが義務づけられます。期限を過ぎた場合、最後にクラスタ合格した年度から数えて 5 年前の年度以前のクラスタ合格は無効となります。受講料の返還はありません。国内山岳医・国内山岳看護師資格取得後に国際山岳医・国際山岳看護師資格の取得を希望した場合、国内山岳医・国内山岳看護師受講申請時より 5 年以内に必要単位を取得すれば、国際山岳医・国際山岳看護師資格を取得することが出来ます。認定に関する質問は dimm01@jsmmed.org へお願いいたします。

XII　各講習の登山装備

スキー、スノーボード、スノーシューを含む全ての登山装備は、各人で予め用意

して講習に臨んで下さい。

XIII　資格更新

認定山岳医・認定山岳看護師資格を取得した方は、その資格更新のために 5 年毎に、別途提示される”認定山岳医資格更新プログラム”に従い所定の単位を取得する必要があります。ただし、2013 年度までの資格取得者は、2018 年度までの間に上記単位を取得すればよいこととします。

付記：受講に必要な最低限の登山技術（合格基準ではありません）

夏期

１）ロープ、スリング、カラビナ、ハーネス、ヘルメット等の知識

２）ハーネスの付け方、スリングを用いた簡易ハーネスの作り方、ハーネスへのロープの結び方

３）支点（アンカー）の知識、作り方

４）自己確保（セルフビレー）

５）トップロープのビレー

６）下降器を用いた懸垂下降

７）フリクションノット（プルージック、マッシャー等）による登高

８）ムンター（ハーフクローブ）ヒッチ、ダブルエイトノット、クローブヒッチ（インクノット、マスト結び)、ダブルフィッシャーマンズノット

９）1/3 引き上げシステム等の理解

１０）ピッチグレード III 級程度の岩場のフォロワーとしての登攀

冬期

１）アイゼンを用いた歩行技術

２）雪や氷を用いた支点の知識、作り方

３）1/3 引き上げシステム等を用いたクレバスレスキューの理解

４）ビーコンとプローブを用いた雪崩埋没者の捜索及び救助

５）簡単なアイスクライミングの技術

補足：原文の「grade WI 2」とは Consistent 60° ice with possible bulges; good protection と定義されます。これは山岳地に限定されるものではありませんが、ゲ

レンデ（八ヶ岳ジョウゴ沢等）でのアイスクライミングの経験が求められます。

UIAA /ICAR/ISMM

DIPLOMA IN MOUNTAIN MEDICINE

申込用紙

（申込書に記載された個人情報は、管理目的で全講師の間で共有されることをご了承下さい。）

氏名：　　男、女

生年月日：　西暦　　年　　月　　日

住所：

電話　　職場：

自宅：

携帯：

E メール（添付ファイルが受信可能なアドレス）

職場：

個人用：

携帯：

医師免許発行日：　西暦　　年　　月　　日

医籍登録番号：

専門：

希望するコース

１．国際山岳医（Diploma in Mountain Medicine）講習

２．国内山岳医講習

国内外の登山経験

夏山縦走経験：

夏山岩登り経験：

沢登り経験

冬山縦走経験：

冬山岩登り、アイスクライミング経験

山スキー、ボード経験

公式の登山ガイド、指導員資格：

公式の山岳研修受講記録、受講年月日：

所属山岳会：

救命救急講習受講の経験：

当 Diploma 受講の理由を記述して下さい。それによりどのような貢献が出来ますか。自分の国内外の登山経験と自分の役割、および特別な登山医学計画、登山医学講習などを含めた記述をお願い致します。

申込は、JSMM ホームページから、認定山岳医制度登録フォームにてお願いします。

http://www.jsmmed.org/dimmjpn_entry.html

お問い合わせは下記にお願い致します。

日本登山医学会認定山岳医実行委員会　dimm01@jsmmed.org